

乳幼児突然死症候群
(SIDS)から
赤ちゃんを守りましょう

SIDSとは、それまで元気だった赤ちゃんが、事故や窒息ではなく睡眠中に突然死亡する病気です。原因は、まだわかっていません。日本では、およそ6,000人、7,000人に1人の赤ちゃんがこの病気で亡くなっていると推定されています。生後2か月から6か月に多く、まれに1歳以上でも発症することがあります。

SIDSから赤ちゃんを守るための3つのポイント

- ①うつぶせ寝は避ける
- ②たばこはやめる
- ③できるだけ母乳で育てる

■問い合わせ先
健康増進課 ☎(52)1116



栃木県全体で「脳卒中啓発プロジェクト」に取り組んでいます

南河内第二中学校で出前講座が行われました。

10月10日(水)、南河内第二中の一年生を対象に脳卒中啓発のための出前講座が行われました。慶応義塾大学医学部教授の岡村智教先生より、脳卒中の症状についてや、家族や周囲の人に脳卒中の症状があったら救急車を呼ぶ等、早期に受診することをおすすめしてほしいとの講話がありました。

■問い合わせ先
健康増進課 ☎(52)1116



「脳卒中かな」と思ったら
一刻も早く救急車を
呼びましょう!



早期受診で、命を救い、後遺症を減らせます!

特に、脳梗塞発症直後に用いることで後遺症を軽減できるt-PA静注療法*は、**発症3時間半以内に病院に到着しなければ、受けることができません。**
お年寄りには症状が分かりにくく、マヒ等を強く訴えないこともしばしばあります。
「脳卒中かな?」と思ったらすぐ救急車を呼びましょう。

脳卒中を疑って救急車を呼ぶ場合の症状は?



●片方の手足・顔半分のマヒ・シビレが起こる(手足だけ、顔だけの場合もあります)



●片方の目が見えない、モノが二つに見える、視野の半分が欠ける



●経験したことのない激しい頭痛がする



●ロレツが回らない、言葉が出ない、他人の言うことが理解できない



●力はあるのに立てない、歩けない、フラフラする

症状に気づいて、救急車を呼ぶのはあなた。
大切な人の命と生活のために、ためらわずに呼びましょう!

*t-PA静注療法とは、t-PAという薬を静脈注射して血栓を溶かす治療法です。発症後4時間半以内でないと受けられず、病院到着後準備に約1時間かかるので、約3時間半以内に病院に到着しないと受けられません。